夕刊 磐城新聞 六月四日發行 (日曜祭日翌日休刊)

綠陰偶語 中

坪田讓治

四十七にもなれば、他人に對する感情にしても、世間といふものに對する心持にしても、少しは違つたところが出來て來るだらうと思へるのですけれども、それが私自身としては少しの變りも認められないわけなんです。これについては、他の四十五十の人に聞いても見たいとおもひますが、私の周圍の、さうです、家内にしましたところで、友達にしましたところで、やばり私同様のことをいつてをります、四十七なんて氣が少しもしないわけなんです。子供の頃、青年の頃又は三十代の頃と同じに、旨いものは食べたく、美しい異性の前では恥かしく、お巡りさんはこわく、大勢の人の前に立てばつひあがつてもしまふわけです

然しこれは私や私の友達がみな偉くないせいなんでせうか、大臣や大將のやうになれば、千萬人といへどもわれ行かんといふやうになれるものなんでせうか、偉くない私には解りませんそれで、私の切なる願ひはいつか惠まれたる機會があれば、このことを總理大臣閣下や、陸軍大將閣下に聞いて見たいと考へることです

『偉いあなたは、さうです、歴史に殘る人ですが、やはり偉いやうな氣がいたしますか、自分で、他の有象無象と違つた感じがいたしますか、小學生の頃或ひは、中、大學生時代は、あなたも他の學生と殆んど變つた處もない人だつたのでありませうが、今は如何ですか變つたやうな感じがいたしますか』

想像してみまするに、大臣閣下も、大將閣下も、この私の質問にやはり私同樣の答へをもつのではないでせうか

『僕でもやはりお巡さんは恐いよ、旨いものは欲しいよ、美しい異性の前では恥かしいよ、大勢の人の前ではあがり氣味にもなるんだよ』

でも、これは身分低い草莽の臣讓治の考へることなんでせうか、閣下となると『いや、僕などは國家の重きを以て任じてゐるので、日夜考へることは國の盛衰である、愛國の熱意そんな瑣事を思ふ暇がない』といはれるかも知れない素よりそれはさうであらうか、私のいつてゐるのは、氣質の問題です

春日郊行

珠雲 小野務亭

風暖日長薇蕨肥
脫裘吾亦著輕衣
攜兒孫去散郊外
雲雀中天自在飛

廢坑の夏

鈴木欣々子

(ふるさとをはるか去れる友へ)

廢坑の金龜子がこよひ灯をうてり
廢坑のはたるが蚊帳に來てすがる
ふるあなに螢がこぼすひかりあり
廢坑にほたるを產みし草刈るよ
くさ刈りの兒に木苺の熟れてあれ

磐城歌壇題詠復活

六月題詠 新妻久滿夫選
『麥』
『雲』
歌數自由
締切 六月二十日

影を抱く女 16

山路不二男

愛してゐる。戀してゐるしかし、身分を忘れてはいけない妻のある身を、しかも、相手が妻の妹ではないか。良心の追擊と、熱烈な文子の吐息に、苦しいヂレンマに落た彼は、躊躇し途方に暮れた

『靖司さま!』

熱涙の迸りと共に叫ぶ呼び聲。靖司が智子と結婚してから四年、それ以來、初めて聞く呼び聲であつた

おゝ! その聲、四年振りに聽く懷しい呼び聲、一切が忘れられ、何ものも消え去つた。情愛の波は、堅固な堤防を押し破つて、滔滔と狂奔した。今はなんの躊躇も逡巡もなく、本能的に突進した。スパイクされた感激の觸覺は、天國に繋ぐ歡喜の情炎と燃え、密着された雌雄の花瓣からは、熱い吐息が交換されてゐた

互に悅び、互に許した

月光は淡く、電灯の光りも弱い。絕間なく搖れる靑葉の音。涼風の囁き、蒸氣船の爆音すらも、音樂的な甘やかな階調を含めて聞えてきた

(優しいお姉さま赦して)

文子は、心の奥底で智子に詫てゐた

『お義兄さま、私、戀心を告白して、時運の祭壇に捧げます。——告白するからと申しましても、お義兄さまを苦しめる目的の爲にするのではございません。誤解ないやうにお斷りして置きます』

二人の父は、中學、大學と同窓であつた關係と、性格が一致してゐた爲、六十有餘年の現在まで、肉親の兄弟にもました親交を繼續してゐた。その愛兒である彼等は、父同志の親交に感化され、理解ある友達となつてゐた

文子が十七の秋、彼女の母と靖司と三人連で、紅葉の日光へ旅行した。その時以來、靖司に對する文子の感情は、桃色の慕しさに變つた

白い船

田村しげを

小鳥が塒に歸るころ
白い煙を立てながら
港に船がつきました
白いお船がつきました
町に灯がついたとき
船にも灯がつきました
白、黄、靑の灯が
波にうつつてきました
港がしづかに眠るころ
船も夢をみてゐます

かへり道

さようなら……
いつも別れる曲り角
ひとりぼつちでさみしいな
しづかに午後の日は落ちて
そつと口笛ふいて見た
だまつて小石を蹴つて見た

6月5日

△後醍醐帝伯耆より還幸(元弘三)△英の哲學者アダム・スミス誕生(一、七二三)△池田屋騷動(元治元)△東郷元帥國葬(昭和九)△入山遭難死体全部收容(同一〇)

小說 高橋是清 (31)

松浦泉三郎作 佐々木今朝吉畫

元三郎浪人 (二)

慶應二年冬——

木枯しが狂つたやうに荒れてゐた。雪もよひの空は重く低く垂れてゐた。その下を行人は横なぐりの風を避けて吹きまくられる木の葉のやうに、早足で往來してゐた

寒氣が骨髓に食ひ入るやうな日の晝近かだつた

横濱——吉原の入口の一膳飯屋の暖簾をくゞつて無言で片隅に席をとつた一人の浪人が飢ゑた狐のやうな妖しく光る雙眼を亭主に向けて

『酒!』

と、一言言つて眼を閉ぢた

奥羽浪人村上元三郎——と、自稱して二三年前から市中に姿を見せてゐる男だつた。さう言へば、どこかに奥羽訛は微ながらあつたまだ不惑を三ツ四ツ越したばかりだが、おそろしく老人じみた風貌をしてゐた見すぼらしい身裝で、草履も雜刀だつた。流行らない鮫鞘の一腰——中味は誰の目にも、竹光以上には想像されさうもない

『へえ、お肴は?』

と、亭主の訊くのを

『要らん!』

と、これも唯一言

亭主は格子の蔭から客の様子をヂロリ睨んで、一度手をかけた上酒の呑口からその手を放して、並の方をギユシと捻つた

客は他に二三組ゐた

『お待遠さんで』

亭主は、元三郎の前へ銚子をおくと、それでも世辭の心算で

『大分早いお繰込みで……!』

と、言ひかけたが、また晝前だつた事に氣付くと

『當節は晝遊びが流行のやうでして……』

てれかくしに付加へた。

が、對手がニコリともせず

『あとを』

と、命じたので、そゝくさと客に背を向けた

風が暖簾にはためいた

『おゝ寒い』

廓戾りらしい、遊人風の二人連れの一人が立つてピシッと荒い音を立てゝ、油障子を閉めた

『滅法寒いな、兄弟』

『俺のせゑぢやねゑ』

『まだ根に持つてやがら』

二人は聲をあげて笑つた

『だがよう』

と、兄弟——と呼ばれた年上の方の男が、盃をおいて吐き出すやうに

『厭な世の中になりやがつたな』

『言つたつて初まらねえやな』

若い方が口許に笑ひを殘して

『あれが當世てえもんさ』

『笑はせやがら、オツに納まつた口の利きやうするな』

『尖る方が可笑しいせ。人間萬事金の世の中、目色毛色は變つてゐやうと、金せゐたんまり出しや文句なしこれが今風と言ふもんぢやねえか。女郎だつて慾は知つてらあな』

『且にえんげれす、夕にめりけん……か』

『ちげねえ』

二人は又無遠慮に哄笑した

『然し、黑船騷ぎで腹ア立てゝゐた頃の方が宜かつたな。眞逆にお前こんな世の中になるとは思はなかつたし……』

『さうよ。廓にまで赤髯がのさばつて、日本の女を自由にする世の中と來やうとは思はなかつた。考へりやあ癪の種よ』

『火放けでもやらかすか』

『冗談ぢやねゑ。ははは……』

と、言つた時、耳許で

『俺も同感だな!』

皺がれた聲がしたので思はず二人が振向くと、長身の痩せた浪人が、雙眼をギロリとさせて薄氣味惡い笑ひを浮べてゐた

廣告

不二タクシ 電話三二一番

心ヨク通ジ藥 アロフエノール 平田町 阿部藥舖

レコードは十錢日掛が便利です 時計。メガネ 自轉車ランプ 萬年筆。蓄音器

高橋時計店 平町二丁目 是非御申込下サイ 店員參上御相談申マス (小店員募集委細面談)

前田醫院 院長 前田濟美 植田町電話一二四

大和田醫院 平町南町

◎日本石油株式會社特約店 ライジングサン石油株式會社東油特約店
關彰商店平支店 電話六一番
本店 水戶線下館驛前 (電話五五・三三九番)
營業種目 石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス・ストーブ
支店所在地 茨城縣土浦町田宿(電話六五三・八二四) 常磐線關本驛前(電話平潟五四) 常磐線四倉驛前(電話四八) 久慈濱支店(電話二三七番)
海上給油及油槽所 大津、平潟、小名濱、江名濱

診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院 院長 日本齒科醫學士 中野憲次 日本齒科醫學士 西川誠
(見習看護婦募集) 平町田町(松月堂向ヒ)電話五〇九番

ウワツハツハツハー 生の旨さを知らずにビールを語るなんて? 例年の通り生ビール賣出し キリンビール仙臺工場直送 ……(每日午後三時着荷)……

洋食は 平會館

整形外科專門 X光線科 醫學士 大河內一郎 柔道整復師 大河內寅男 平町才槌小路四 大河內整形外科醫院 電話五八八

食事、喫茶、酒場を兼ねた 初夏のサロン 男給の店 平・田町・電三五二

吉田眼科醫院 醫學士 吉田久雄 平町紺屋町 電話六八番

外科一般 特ニ內臟外科 皮徽科。肛門病科 北川外科 レントゲン科 物療法科 平町新川町(諸橋醫院跡) 醫學博士 北川芳夫 イツデモ入院デキマス。 電話四六四番

公社債株式現物賣買 照山株式平支店 主任 常盤光威 福島縣平町田町五 振替東京八八一六三番 電話四十六番

小店員募集(十五、六才) 委細面談

磐城高等女學校 夏の新制服賣出 輝く碧空の下に颯爽となかやの制服で! 型・生地・裁縫細かい點にまで充分吟味してございます。 1回45錢ヨリ ふかや洋服店 平三 電203

大至急 會員募集 年齡、學歴を問はず堅實なる婦人を望む 平町紺屋町 上原家政婦會 電話二二番

小型活動寫眞機 ポニイ 九ミリ半 改良された前進號 撮影機 ¥25.00 映寫機 ¥24.00 (カタログ進呈) 平2・電3 西村屋藥舖 カメラ部

內外 建築材 建具材 阿部材木店 磐城國平町(公園下) 阿部好利 電話四九四番(改メ)

全面的に活況を呈し 各方面の景氣上向く
個人所得、營收税の增加

平税務署管内（石城郡一圓）に於ける第三種所得税及營業收益税は過般調査委員會閉會後、熊澤課長、近藤主任等が只管課税の公平適正を目標に其間苟も遺漏無きを期し目下決定を急ぎつゝあり多分明後六日頃には決定通知書を發送する手筈になつてゐるが大体の成績は

（括弧内は前年分）

（第三種所得税）納税人員一、三八〇人（一、三四八）所得額二、四二三、四〇九圓（二、一八八、五二四）

前年に比し漁業所得の増加及昭和人絹關係の俸給並に各炭鑛方面の增俸、賞與等で人員二分三厘所得額一割七厘を增したのを筆頭に

（營業收益税）人員一、二三八（一、二〇九）純益一、一六一、七〇二圓（一、一〇三、二三二）で軍需工業の勃興に因る鐵工場の收益增加で之亦人員二分三厘、純益五分二厘を增してゐるが單り

（乙種資本利子税）は人員四三三人（四四八）利子額九〇、四一六圓（九三、八六四）で前年に比し人員三分三厘利子額三分六厘の減を示したるも以上の數字は總じて景氣の上向きを物語つてゐる

映畫と漫談の夕 第一人者大辻氏 ご愛嬌發散
平青年團で主催

平町青年團では昨三日夜幹部會を開き資金造成に就て協議の結果、來る二十日午後七時より聚樂館に『漫談と映畫の夕べ』を催すことになつたが漫談には斯界の第一人者大辻司郎氏を招き映畫には東日提供の記錄物國策物、ニュース、漫畫等多數上映すると、料金その他未定である

綴驛入換線增設
炭車の輻湊緩和さる

黑ダイヤ景氣の上昇と共に綴驛に雲集する貨車の輻湊は常磐線第一で構內の狹隘は當局の惱みの種となつて居り東鐵局では入換線增設の必要を痛感、昨年度末本省工務省に設計伺ひを提出し爾來關係各局で審査を進めてゐたが今回終了を見て立案持廻り本協議に附され近く今月下旬承認される見込であるが、工事完成の曉は從來の輻湊大いに緩和され山元發送の能率も充分向上することになると

川中子青年分團役員

好間村第二青年團川中子分團では此程の總會で今年度役員を左の如く改選した

團長吉田吉男 副團長柴野確 會計大谷喜平 吉田濟 体育部長高木源一郎 修養部長四倉保忠

神谷納税表彰

神谷村では今四日午前九時から小學校で村、縣、國税の優良納税者表彰式を擧行、高屋平税務署長臨席した

平町青年視察旅行

既報―平町青年團では明五日朝五時紺屋町住吉屋本店前出發遊覽バス便乘、左の視察旅行を行ふ

行程は御齋所街道を經て白河町に至り南湖公園見學那須で那須山登山温泉一泊、翌六日は一路須賀川に飛ばして牡丹園見學郡山に專賣局工場を見學夏井溪谷を經て午後九時歸平の豫定一行は各分團一名合計三十餘名である

昭和石炭幹部一行視察

今四日夕刻來郡

昭和石炭會社の幹部一行十八名は今四日午後六時來郡岡部磐炭重役、大山入山販賣部長、大屋古河販賣主任の案内で翌五日第二磐炭入山、磐城、古河各炭鑛を視察の上同日夕刻歸京する

産業組合設立促進協議
來十四日團体事務所で

郡下の産業組合は縣の奬勵によつて續々設立され現在三十一組合に上つて居るが尙未だ川前、箕輪、渡澤、水戸、三阪、上、入遠野、田人の各村には設立を見てゐないので縣ではこれらの各村にも是非設立させることゝなり來る十四日午前十時から平團体事務所に關係者を招き設立促進及新設組合の指導等を行ふ事となつた

昨今の農村に『この憂欝』
麥作は二、三割減收？
昨冬來の寒害に祟られて 神谷分場の悲しい觀測

昨冬來の寒害により分蘖等の阻まれた郡下の麥は大小作を免れず農家を憂色に包んでゐる、收穫が來月頃なので未だ正確な豫想はつかぬが平年作の五萬六百餘石に比し二、三割の減收は見るであらうと神谷農試分場では悲しい觀測を下して居る

郡下全般に及んだ 苗代の猫毛病
早くも苗不足を懸念さる

低温多濕の不順天候により田植期を目前に控へて居る苗代には既報の如く猫毛病が發生し最初夏井村や山間方部が甚しいと見られてゐたが昨今では全郡的に蔓延してゐるのでこの分で行けば苗不足を來す虞れもあるので目下關係筋では防疫其他により極力これが防止に努めて居る

桑園の敵 赤澁病警戒

昨今の不順天候が禍して目下伊達郡の各所桑園に赤澁病が發生して居るがこの病菌は風が媒介する性質から各地に發生の虞れが充分にあるので蠶業取締平支所では縣からの通牒に基き一般養蠶家に警報を發する

赤澁病は恐るべき蔓延力を有する桑園の敵で病菌の絶滅策としては桑葉に密着して居る赤澁を採取し燒却する事が肝要であると

試掘許可

東京市世田ケ谷區池尻町久保田欽三氏外一名が出願中の田人村上遠野村に跨る四十九萬百坪に亙る石炭試掘、又群馬縣新田郡世良田村石城炭鑛會社出願の上遠野村十六萬六千四百坪の同上は何れも此程許可になつた

拈華微笑（今日の問題）

英國憲兵の邦人虐殺事件に關し二日午後英國大使館は文書を以て『英國當局は該事件に就てその犯人を英國憲兵の仕業とするに足るの證據不十分』なる旨を記し却つて逆襲的態度を示してゐると傳へられる。照々たる事實に對して此の言ひ草ではアングロサキソンの民族的矜持も眉唾ものである

×

わが郷土部隊は昨三日第二師團派遣旅團の編成を解かれ、五日夫々衛戍地へ歸還する事になつた、去る二月二十八日大命を奉じて急遽帝都に出動して以來叛亂の下寧日無き警備に服し月を閲する事三度、其責務の重大なるを自覺しよく至難の服務に堪へた忠君愛國の將士、吾人たるもの其忱悃の赤誠を以て迎へねばならぬ

×

人間の姙婦から取つたホルモンを不姙馬に注射して馬を殖やすの方法が全國に魁けて、田村郡の常葉産馬組合で實行して居る。效果九〇%、人間と馬が親類になりさうな話である

×

近來寄ると障るとその話で持ち切つて居るなにがし沙門の不邪淫戒問題。寺の名もセックスの源であつた

×

早手廻しの入梅氣分。尤も早く切り上げて呉れるなら結構だが、この分丈けおまけ分にされたら事だ

僅か一年足らずで 三千五百餘圓を呑む
酒屋の白鼠平署に檢擧

平町研町一〇酒商白萩事屋島隆助方雇人喜多方町字天滿前生れ佐藤三郎（三三）は一昨年一月から同家の番頭に雇はれ中昨年五月頃から酒醬油類を胡魔化しては得意先に安値で賣り飛ばしてゐた事發覺、三日平署に檢擧されたが屋島方の被害は三千五百餘圓に及んでゐる、尙佐藤の檢擧によつて同人の口から某町酒店番頭某も白鼠をきめ込み酌婦を落籍して他にかこまつてゐる事も判つたので更に番頭某を取調べる事となつた

新方針で 合併を促進
明後六日部長會議

平町の隣接村合併問題は此程平窪村が先進地の視察を行つた結果合併論者も多くなり明五日これが態度決定の村會を招集する模樣なので平町としても此際更に新方針を定めて被合併村に交渉する事となり明後六日午後一時から部長會議を開き種々協議する事となつた

警察官著發

桑折署長から平署次席に轉じた猪狩見義警部補及福島からの菊地武次部長刑事は今四日各方面を歷訪著任の挨拶をした、尙は新矢吹署長小林光盛警部補は來る七日赴任すると

土地賃貸價格調査
緊張の平税務署

平税務署管內の土地賃貸價格改訂調査は六名の臨時雇を入れ改訂法に基き過般來準備を開始したが全地目實に四十七萬筆の多きに上る大事業なので愈々本格的調査に入るに於ては直税課員が暑休廢止の總動員に出る程で之の事務輻湊に備ふる爲常置の臨時雇多數の外制任一名、雇員二名位が增員されるではないかと觀られてゐる

これは元警視廳巡査
兩警官と路上で格鬪

湯本町吹矢居住元警視廳巡査鈴木武夫（四〇）は昨三日夜七時頃同町內飲食店を片つ端から飲み倒した揚句暴行を働いてゐるのを小島、宗像兩巡査が發見取押へんとした處矢庭に抵抗したので路上で大格鬪の上捕へられた

濱の久＝來勿
工費二百萬圓 國道改修促進
◇地元猛運動開始

地方開發の鍵とも見られてゐる勿來―久の濱間の國道改修工事に關し沿線十二ケ町村長は既報の如く今四日午前十時から平町會議事堂に會同、當路へ陳情の準備に關し種々協議の上愈よ積極的運動に乘り出す事となつたが同區間の延長は約十里、この改修總工費は二百萬圓を要するものと云はれ、若しこれが完成の曉は坦々たる『ドライブ道路』として交通上に及ぼす利便は大いので期待されて居るが、小林平土木監督所長も『實現迄には何と云つても地元の熱意が一番必要である』と語つてゐる

古市訓導出發

平第二小學校から樺太廳へ出向を命ぜられた古市克惠訓導は明後六日午後十時廿八分發急行にて出發赴任すると

大本教關係者召喚
解散以前の狀況につき 平署十數名の取調べ開始

平署特高では四日早朝來平町四丁目大本教石城支部長中村佐治助妻あひ（四〇）外內郷、湯本方面から十數名を召喚解散以前に於ける布教狀況並に信仰程度等の取調べを行つてゐるがこれは解散後福島方面に於ける不穩計劃に基く參考訊問らしい

磐女猛練習
大會を前に 籠球部陣容整備

既報―磐城高女籠球部は來る十三、四の兩日開かれる東京女高師主催關東女子中等校籠球大會に出場すべく猛練習を續けてゐるが第一回戰は常總の雄龍ケ崎高女と對戰に決定、石山、新妻兩教諭指導の下に愈々本格的練習に入つた

愛婦幹事會

愛國婦人會平町分會幹事會を五日午後四時半から開き來る十四日の總會に關し協議する

巧に同僚を逃がし 突然警官に抵抗
只飲み男遂に捕はる

內郷村宮無職佐藤敬次（四八）は三日午後一時頃平町長橋町飲食店松屋事遠藤林松方で仙台市東一番町生れ無職前科二犯但木八太郎（三八）と出合ひ但木から『ばくちで儲けたから俺がおごるぞ』と云はれるまゝに兩名で五圓餘を飲んだが賞の處兩名共懷中無一文、女ばかりなのを幸ひに定りのドロンをきめやうと凄文句を並べてゐる處へ折よく通り合せた平署の渡部温部長が入るとそれを見た佐藤は目くばせて但木を裏口から逃がし『但木がおごると云つて飲んだんだから俺の責任ではないぞ』と矢庭に渡部々長の顏面を毆打逃走を企てんとしたが格鬪の末遂に捕はれた目下但木の行方を搜査中

內郷の養子殺し豫審へ

去月四日夜養子裕（九）を細紐で絞殺し己れは出刄で咽喉部を刺して未遂に終つた內郷村宮薄井しん（四九）にかゝる事件は平檢事局で取調中しんの傷も治つたので殺人罪で三日正式に起訴された

小名濱手長小僧捕はる

小名濱町小港字御殿一小野健吉（一八）假名―は二日夜小名濱小學校事務室に忍び込み蟇口一個（在中三圓）を窃取した事發覺、平署に檢擧

傷害に三十圓

双葉郡浪江町高瀬字西原八九瀬戸物行商戶田忠助（三二）は四月十五日夜八時頃同所山田廣方前を通り蒐つた際醉て自分の惡口を吹聽し歩く同所の盲人新藤師佐々木フチエ（四三）の姿を見て憤激の餘り同人の坐つてゐる後から右平手で毆り全治要一ヶ月の右耳の鼓膜裂傷を與へ同人より告訴されたが、此程平區より略式命令で罰金三十圓に處された

太洋亞鉛メツキ好評

平町南町高木秀次郎氏は此程同町大町に太洋亞鉛鍍金所を開設したが右は漁業器具、船舶、水道、鑛山、建築、鐵道、電氣等の諸金物其他一般雨水、鹽水、濕氣ある個所の鐵材類に鍍金加工しその耐久力を永からしむる文化的工業で各方面から多大の期待を以て迎へられてゐた

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩も明日も南の風後時々晴

五日
日出 四、二一 月出 後七、〇二
日沒 六、四九 月沒 前三、五六
滿潮 前三、二〇 後五、一五
干潮 前一〇、一〇 後一〇、一〇

舊四月十六日 戊午 先勝 六月五日 除 牛宿

諸判定 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 家內は和合すれども他人には警戒すべし▲二黑 見越しの附かぬ日▲三碧 勉強の甲斐ありて一家笑顏に滿さるべし▲四綠 空景氣のみ強くして割合に實收の少き日▲五黃 物事しゆん巡の傾向あり目上の助力を仰ぎて吉▲六白 不安のみなきさんとする日進まぬが宜し▲七赤 內外共に順調を欠く交際にも注意▲八白 外見の華きに引かれ調子に乘り易し▲九紫 運盛にして功を遂げ恭翁の如くなるべし

觀光團體募集 三原山への夏

◇期日 七月廿五、六兩日
◇會費 御一名十圓（但し東京解散までの汽車、汽船、自動車、食事その他一切の費用を含む）
◇募集人員 一〇〇名
◇コース 廿五日午後二時十分平驛發、仝六時五十七分上野驛着、自動車で靈岸島へ―仝十時乘船出發 廿六日午前四時大島元村着、旅館で朝食後希望に依りAB二班に分離（A班五時三十分元村發、貸切自動車で波浮港へ。波浮の港から元村へ引返し徒歩で三原山登山、B班、午前六時旅館出發徒歩で三原山登山動物園へ下り貸切で元村歸着）兩班とも午後三時乘船、同七時卅分東京着解散
（詳細は電話六一二番へ御照會下さい）
昭和十一年六月
福島縣平町田町五十番地
主催 福島民報平支局（電話六一二番）

外科、內臟外科 エツキス光線科 院長 安齋徹
新設 産婦人科 醫學士 黑澤廣
入院隨意 平町田町 安齋醫院 電話四七五番

亞鉛鍍金所 開業お知ラセ
平町字大町五番地ニ亞鉛メツキ所ヲ新設シマシタ。何卒宜敷御引立ノ程御願ヒ申上グマス。
從來の電氣メツキ法デハナク耐久力ノ強イ熔解メツキ法デアリマス。
主ナル需用方面ハ 漁業器具、船舶、水道、鑛山、建築、鐵道、電氣等ノ諸金物 其他一般雨水、鹽水、濕氣アル箇所ノ鐵材類等デアリマス
福島縣平町大町五番地（呼）電六三七番
太洋亞鉛鍍金所 所主 高木秀次郎

平町田町 井坂産科婦人科醫院 電話五五九番

夏服御用意は 信用堂へ
平町三丁目…電六一三

廣告